

近畿圏広域地方計画に関するアンケート 調査結果

調査目的

近畿圏に住む人々の現状の意識や今後の期待等のニーズの把握を行い、「近畿圏広域地方計画」の策定へ向けた資料とする。

調査分野

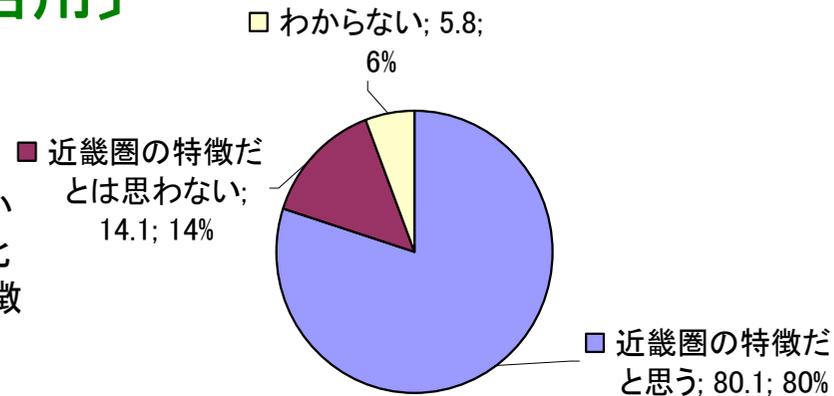
歴史・文化資産の活用、観光、都市と自然豊かな地域との関わり、環境、まちづくり
災害対策

調査内容

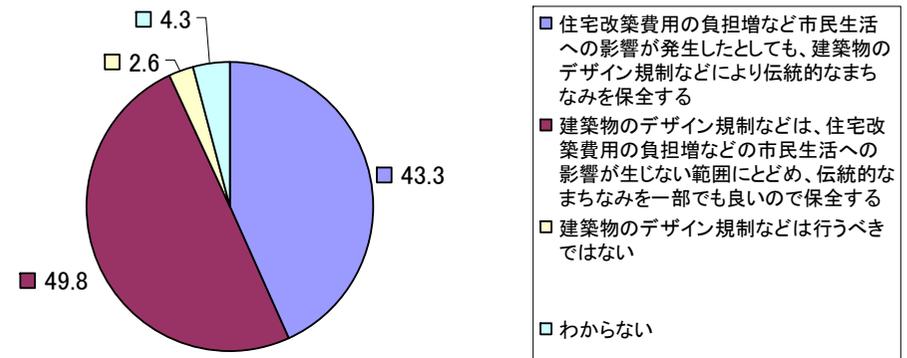
- ・調査期間 : 2008/04/24～2008/04/28
- ・調査対象 : 近畿圏在住者(2府4県の人口比を考慮して回答数を設定)
- ・調査方法 : インターネットリサーチ
- ・有効回答数／依頼数 2215人／5153人 (43.6%)

[歴史・文化資産の保全・活用]

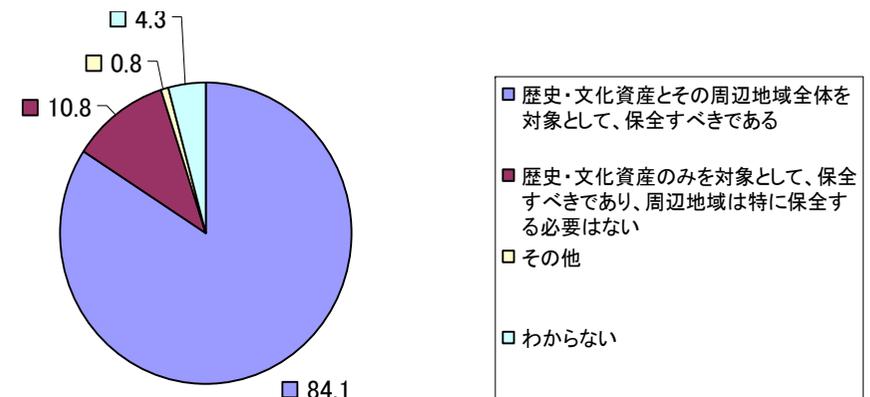
[Q1] 近畿圏には、国宝や重要文化財のほかにも、町家や伝統技術などの歴史・文化資産が豊富にあることは、近畿圏の特徴だと思いますか。



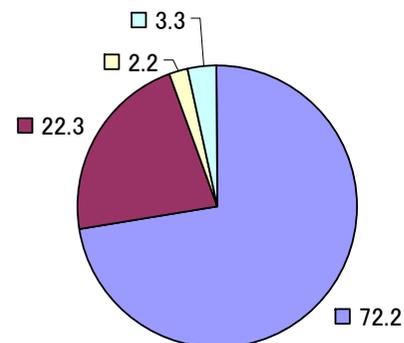
[Q2] 町家のような伝統的なまちなみの中に周囲と調和の取れないマンションが建設されるなど、歴史・文化資産の保全と開発との間で利害が対立するような場合、どのような形で保全すべきですか。



[Q3] 清水寺と産寧坂などのまちなみのように、歴史・文化資産と、その周辺の地域全体とが、発展してきた事例の場合、どのように保全すべきでしょうか。

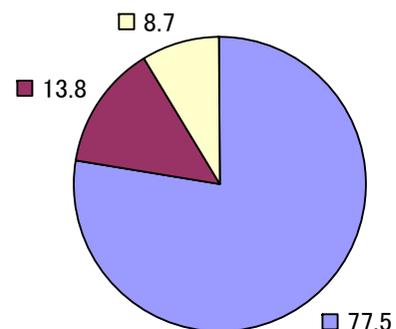


[Q4] 近畿圏には、宮大工や織物などの伝統技術がありますが、これらの技術を歴史・文化資産としてどのように保全すべきでしょうか。



- 行政が保全の取組に対して支援すべきである
- 伝統技術といえども産業であり、伝統技術の保有者が自主的に保全すべきである
- 時代の流れにあわせて技術は進んでいくものであるから、そもそも保全の対象とする必要がない
- わからない

[Q5] 近畿圏には、歴史・文化資産など、質の高いものが多く蓄積されており、今後も近畿圏では、「質にこだわる」という共通認識を持って、まちづくりを進めていくべきだとの意見があります。このような意見に対して、どのように思われますか。

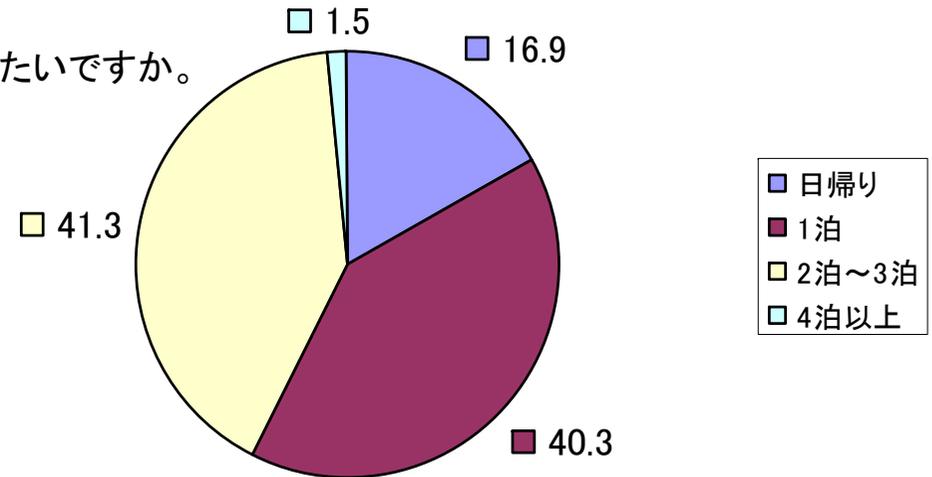


- 多少の不便や経済的な非効率があっても、デザインや歴史などにこだわって、質にこだわる「本物」のまちづくりを行うべき
- 生活を優先し、個々の自由に任せたまちづくりを行うべき
- わからない

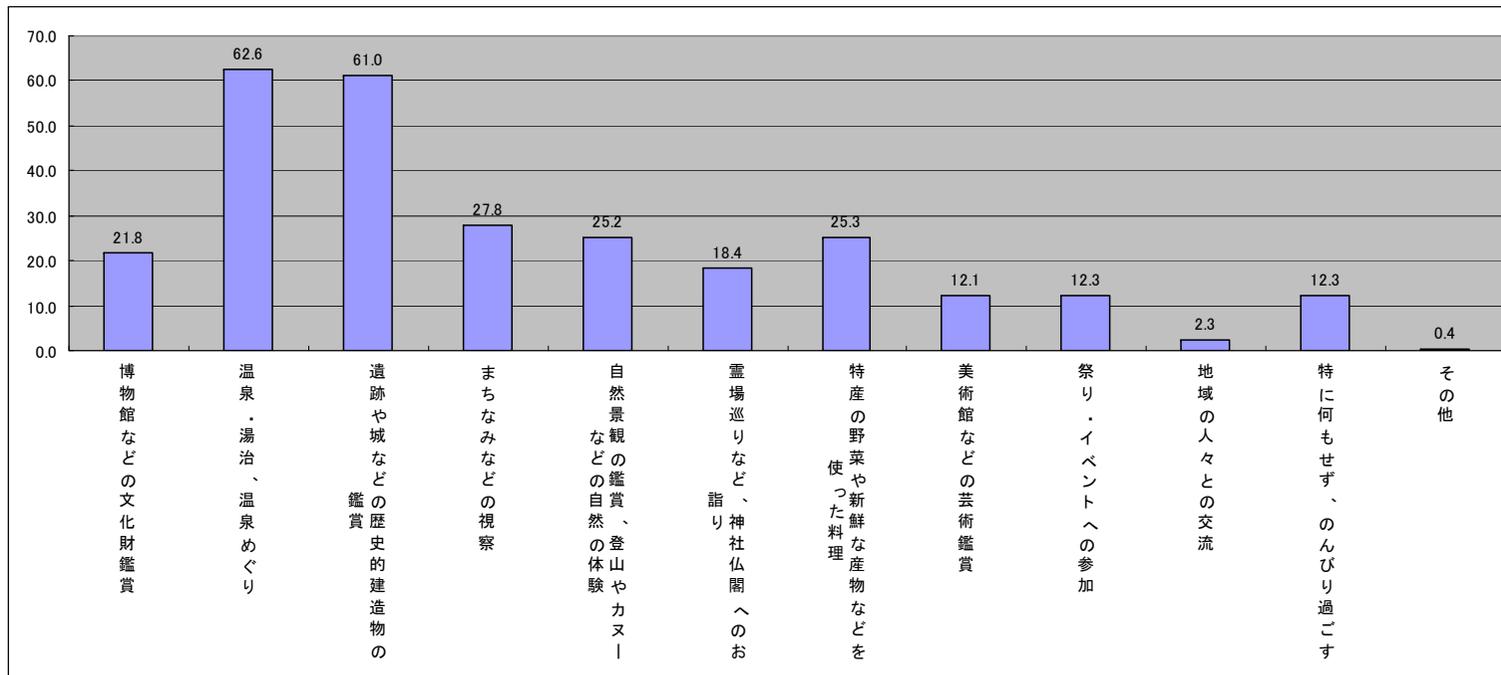
- 近畿圏の歴史・文化資産は、居住者の8割が、豊富で価値の高い資産として、認識している。
- 9割以上の方が、歴史・文化資産としてのまちなみ等を保全する必要があると意識している。ただし、規制手法による住民の費用負担等の影響の有無については意見が分かれており、保全の優先度については多様な捉え方がある。
- 歴史・文化資産と周辺地域が一体的に発展してきた地域については、8割以上の方が、歴史・文化資産のみではなくその周辺地域全体が、近畿圏の資産であると認識している。
- 7割以上の方が、伝統技術は近畿の資産であると認識している。

〔近畿圏の観光について〕

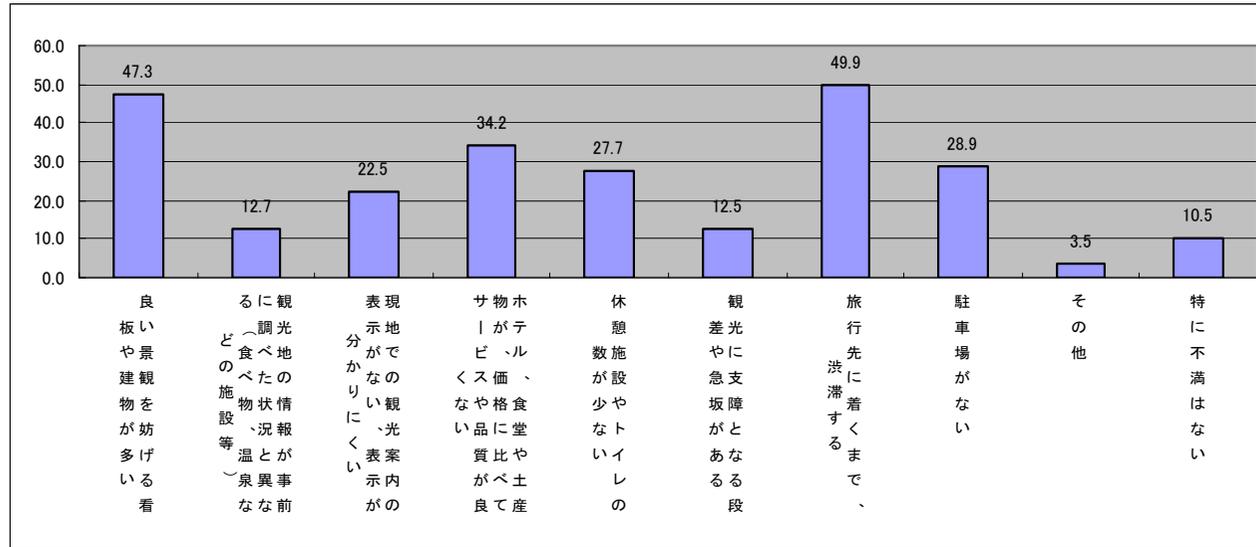
[Q6] あなたは、1回あたりで、どれくらいの日数で観光したいですか。



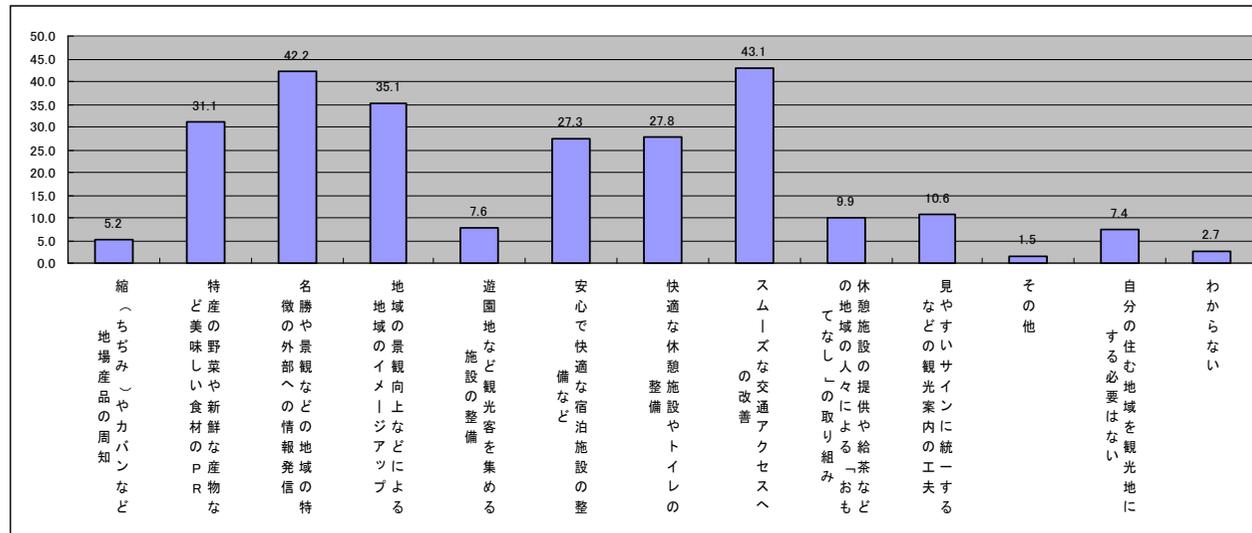
[Q7] 主な観光目的は何になりますか。



[Q8] 近畿圏の観光地で、不満だと思ったことがあるのは、どのようなものですか。



[Q9] 近畿圏には、観光に適した地域が多く存在し、観光振興が地域の発展につながると期待している人もいます。あなたの住む地域を観光地として発展させようとした場合、何が必要でしょうか。

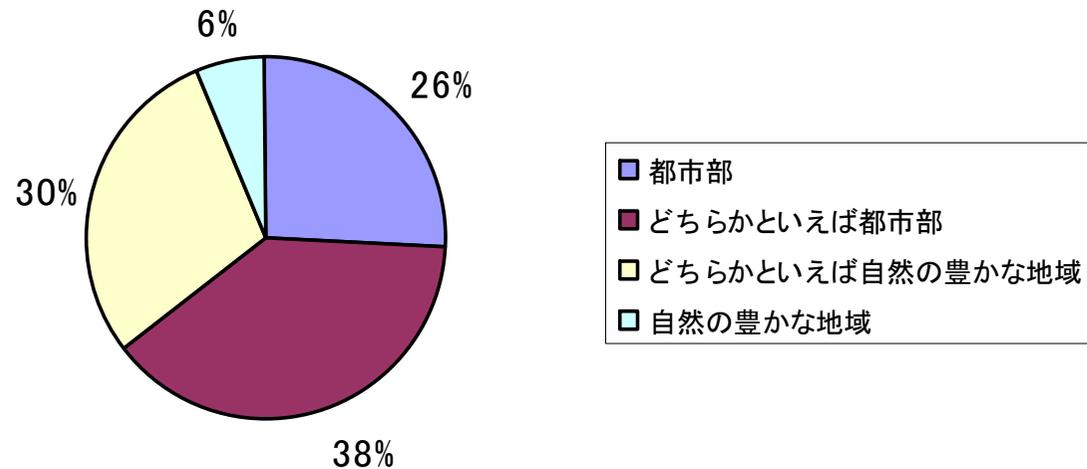


[まとめ]

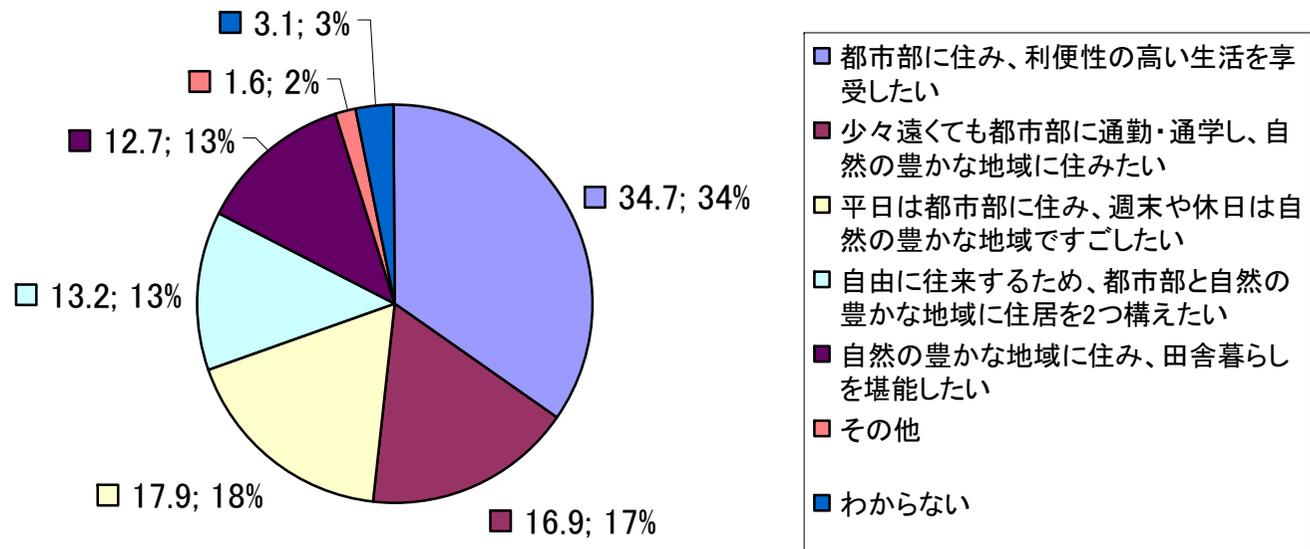
- 観光の形態については、3泊以下の余暇を過ごすニーズが8割以上を占める。一方、4泊以上の長期の滞在ニーズは2%程度と少ない。
- 主な観光目的としては、「温泉・湯治、温泉めぐり」「遺跡や城などの歴史的建造物の鑑賞」が突出して多い。
- 近畿の観光地で不満に感じることについて、「交通渋滞」「駐車場がない」といった都市交通問題や、「良い景観を妨げる看板や建物」との回答が多いが、「休憩施設やトイレ」「現地での観光案内の表示」など施設や観光情報に関する回答も多い。
- 自分の居住地を観光地として発展させる際に必要な事項について、「スムーズな交通アクセス」「地域の特徴の外部への情報発信」等の回答が多い。一方、「観光地にする必要はない」との回答は1割に満たず、少ない。

〔都市と自然豊かな地域との関わり〕

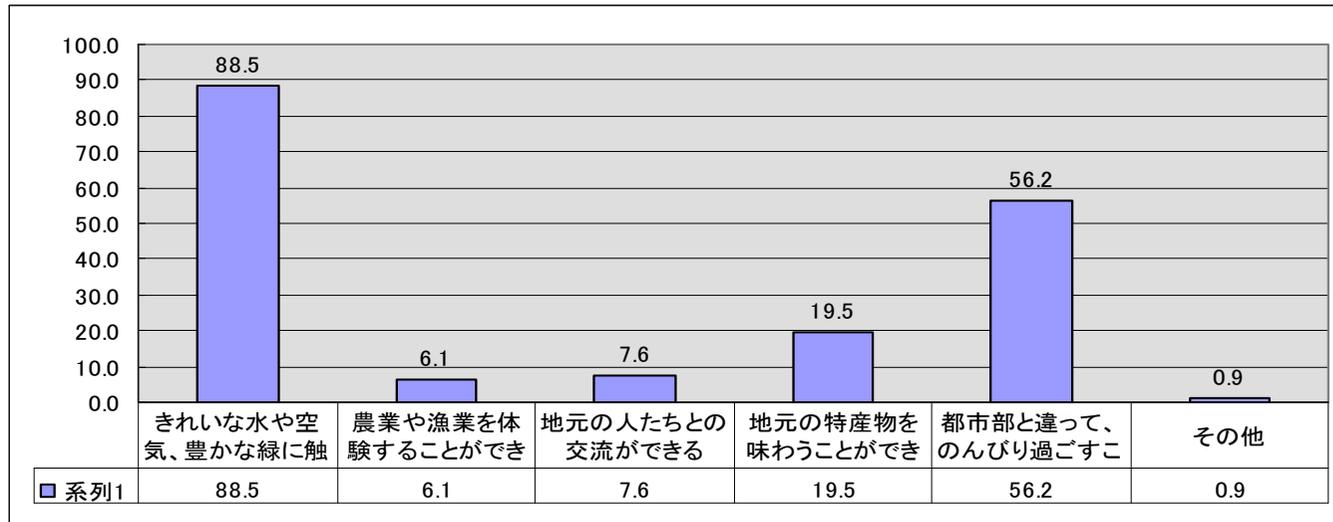
[Q10] 都市部か自然の豊かな地域か、どのような地域にお住まいですか。



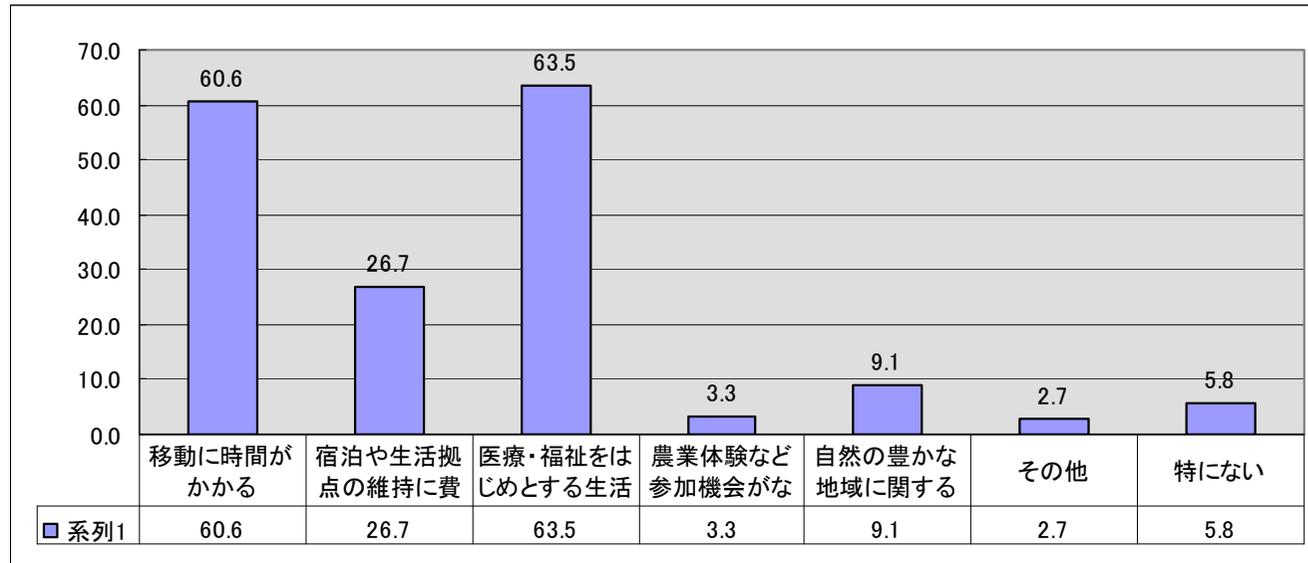
[Q12] どのようなタイプの暮らし方を望まれていますか。



[Q13] Q12で「自然の豊かな地域に住みたい(すごしたい)」を選んだ方に伺います。
 自然の豊かな地域に魅力を感じる点は、どのようところですか。(回答は2つまで)



[Q14] 自然の豊かな地域での生活の課題は、以下のうち、どれでしょうか。(回答は2つまで)

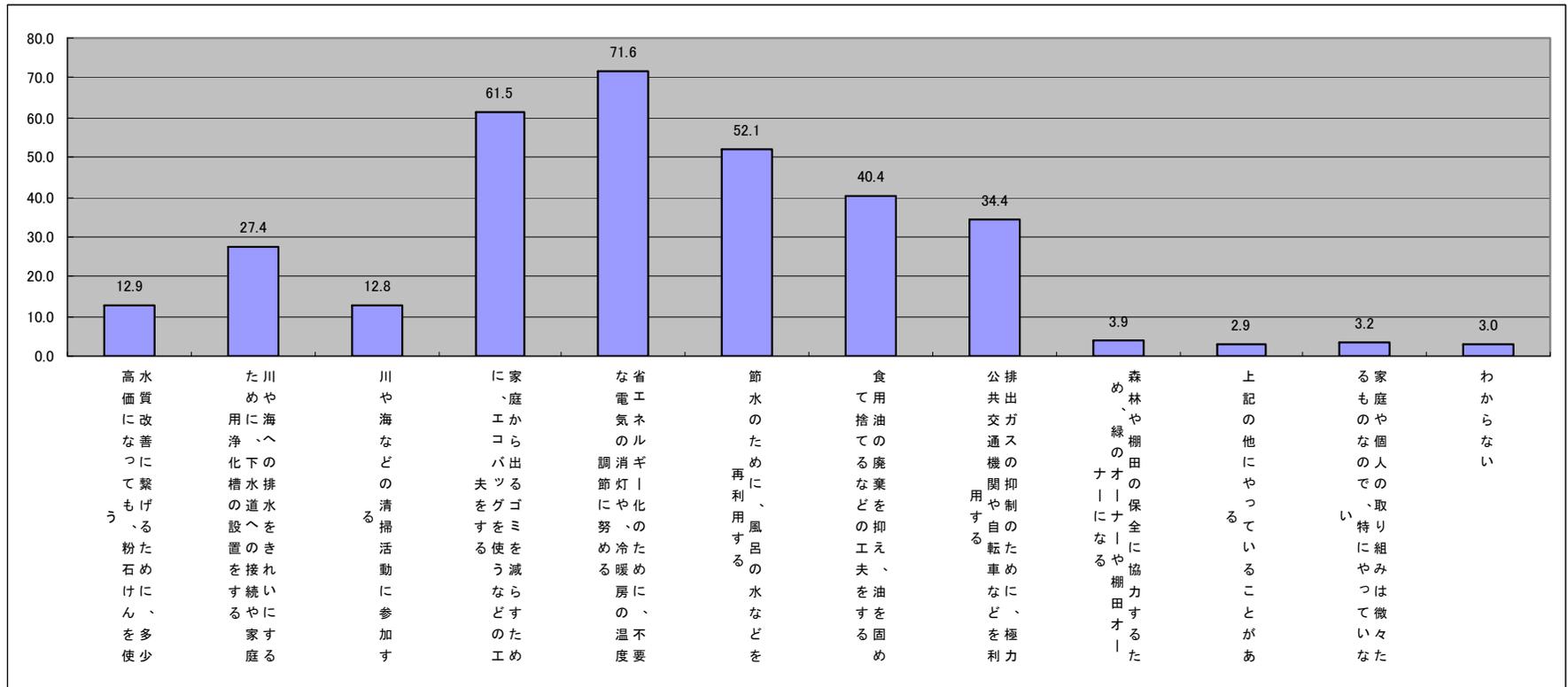


〔まとめ〕

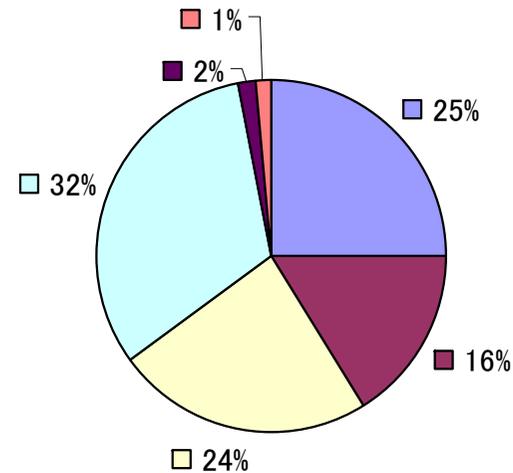
- 居住地は、「都市部」「どちらかといえば都市部」があわせて6割強と都市部が多い。
- 望まれる暮らしのタイプについては、「都市部に住み利便性の高い生活を享受」「平日は都市部、週末や休日は自然の豊かな地域」「少々遠くても都市部に通勤・通学し、自然の豊かな地域に住みたい」という都市部と自然の豊かな地域の両方を享受したいというニーズが5割弱を占め、3割強の「都市部に住みたい」を上回った。
- 自然豊かな地域を希望する人の理由として、良好な住環境や心のゆとりが求められていることがうかがえる。
- 自然豊かな地域での生活の課題についての回答は、交通アクセスや医療・福祉の面での不安が突出して多い。

[環境課題への取り組みについて]

[Q15] 近畿圏が、環境面で先進的な地域となるためには、家庭や個人の取り組みも重要だと言われています。あなたはどのような取り組みをしていますか。



[Q16] 近畿圏は環境面で先進的な取り組みを行う圏域を目指すべきだということも言われていますが、どのような取り組みをするのが良いと思われますか。



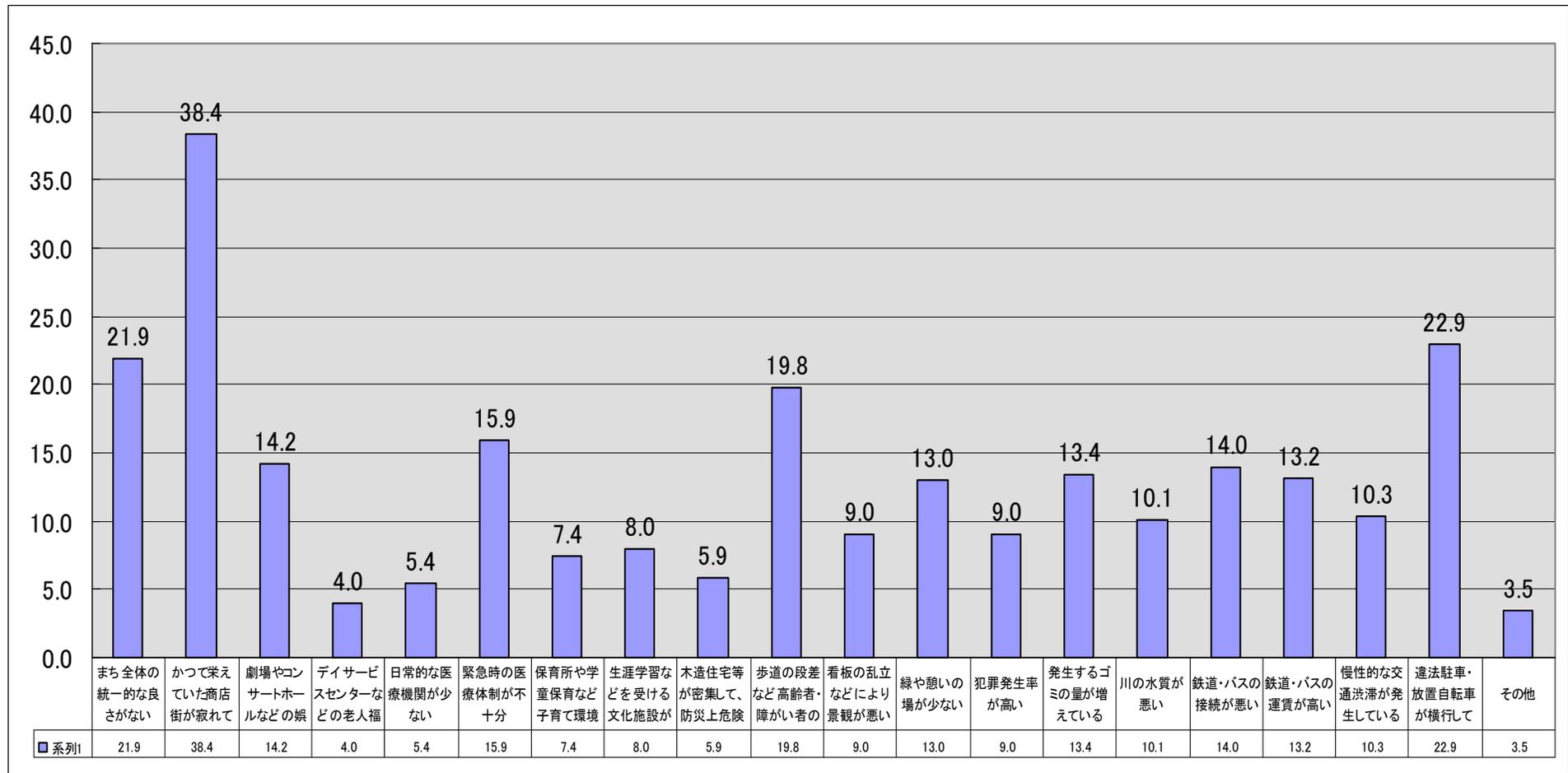
- ゴミの有料化や分別収集など、行政と住民の協力で行う環境保全を一層進める
- 下水道の高度処理やカビを除去するために、行政が行う下水道整備を推進する
- 近畿圏全体で、CO2や水質改善の目標値を設定して、行政と住民で分担・協力して目標達成に努める
- 各自の取り組みが、環境保全にどのような効果があがっているのかを周知して参加意欲を高める
- 先進的な圏域になる必要はない
- その他

■環境面で家庭や個人が取り組んでいるものについて、省エネのための電気の消灯等、日常生活の中で実施でき、かつ、世帯の支出を伴わない取り組みが多い。

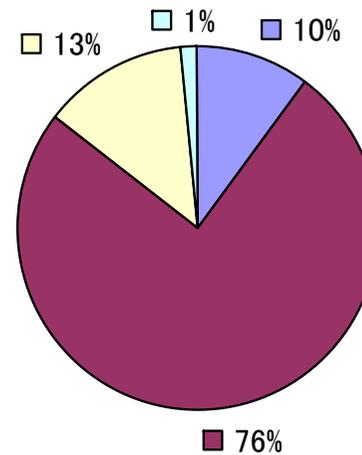
■今後必要な環境面での取り組みについては、「取り組みが環境保全にどのような効果があるのかを周知して参加意欲を高める」「ゴミの有料化や分別収集など、行政と住民の協力で行う環境保全を一層進める」「近畿圏全体で、CO2や水質改善の目標値を設定して、行政と住民で分担・協力して目標達成に努める」の順に多く、ほぼ全ての人が何らかの取り組みが必要と考えていることがうかがえる。

〔近畿圏のまちづくり〕

[Q17] あなたの住んでいる都市の優先して解決すべき課題は何ですか。(回答は3つまで)

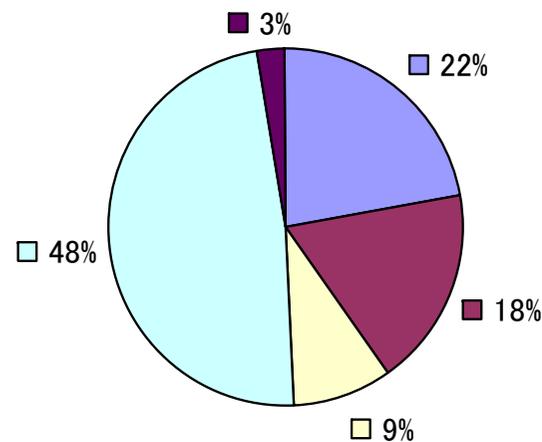


[Q18] 近畿圏の大都市では、最近、都市開発が活発に進められています。ビジネスや娯楽の場としての都市に、どのようなことを期待しますか。



- オフィスビルや情報インフラなど効率の高いまちづくり
- 水や緑などの潤いのある憩いの場の整備
- オフィスや憩いの場だけでなく大規模な文化施設や娯楽施設
- その他

[Q19] 近畿圏の地方部では人口減少が進み、一部の中山間地域においては耕作放棄地が増加し、集落の維持が困難となる場所も出てきています。このような集落の維持に対して、どのように対処すべきでしょうか。



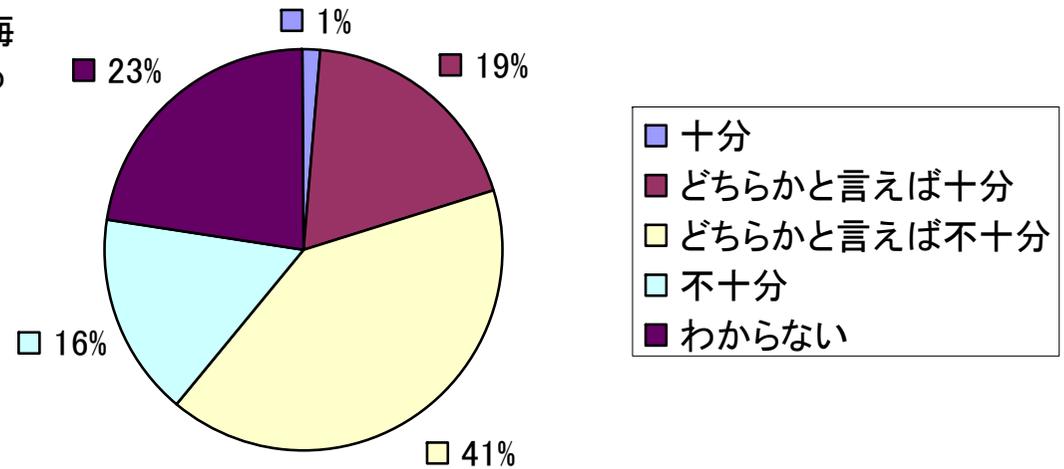
- 新たな工場の誘致や観光の振興などで、集落に活気を呼び込む
- 国土の保全上、集落の維持が必要不可欠なので、税金を使ってでも、地域集落の維持を図る
- 限られた投資のなかで必要な機能を保つには、地域の中心都市周辺に集落を移転する
- 集落に一揃いの機能を整えるのではなく、いくつかの集落で1つの生活圈を作り、生活に必要な機能を分担して、全体で維持する
- その他

〔まとめ〕

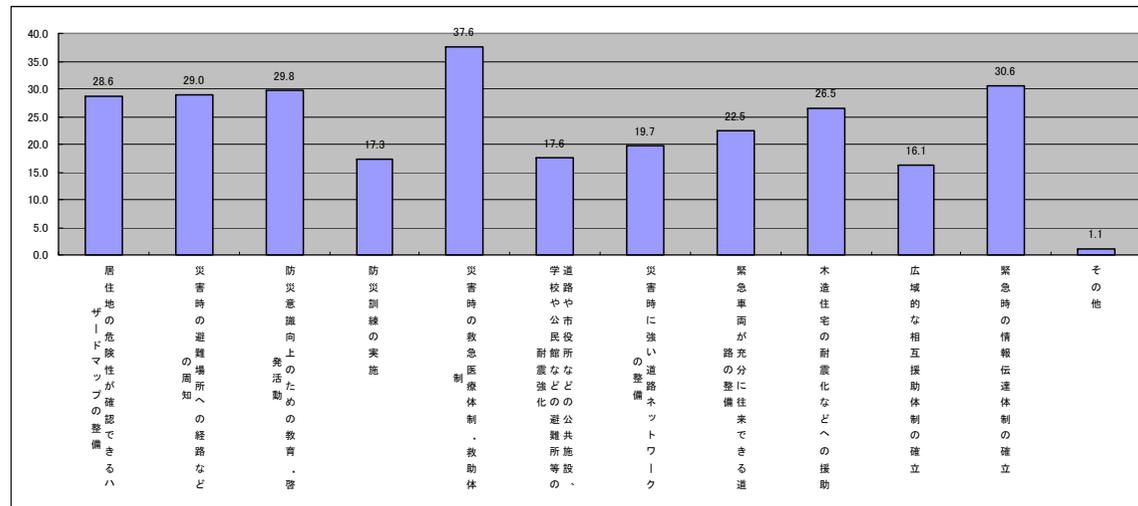
- 都市の課題として、「商店街が寂れている」との意見が多い。これは、都市部・自然豊かな地域のどちらも共通している。その他、特に都市部では「違法駐車・放置自転車」、自然豊かな地域では、「緊急時の医療体制」「鉄道・バスの接続」「鉄道・バスの運賃」が挙げられており、都市部では都市交通問題、自然豊かな地域では都市機能の利便性に対するニーズが高いものと考えられる。
- ビジネスや娯楽の場としての都市に期待することとして、「水や緑などの潤いのある憩いの場の整備」との回答が8割弱と突出して多い。
- 中山間地域の集落への対処方法については、「集落に一揃いの機能を整えるのではなく、いくつかの集落で1つの生活圏を作り、生活に必要な機能を分担して、全体で維持する」との回答が5割弱と最も多い。

〔災害対策への取り組みについて〕

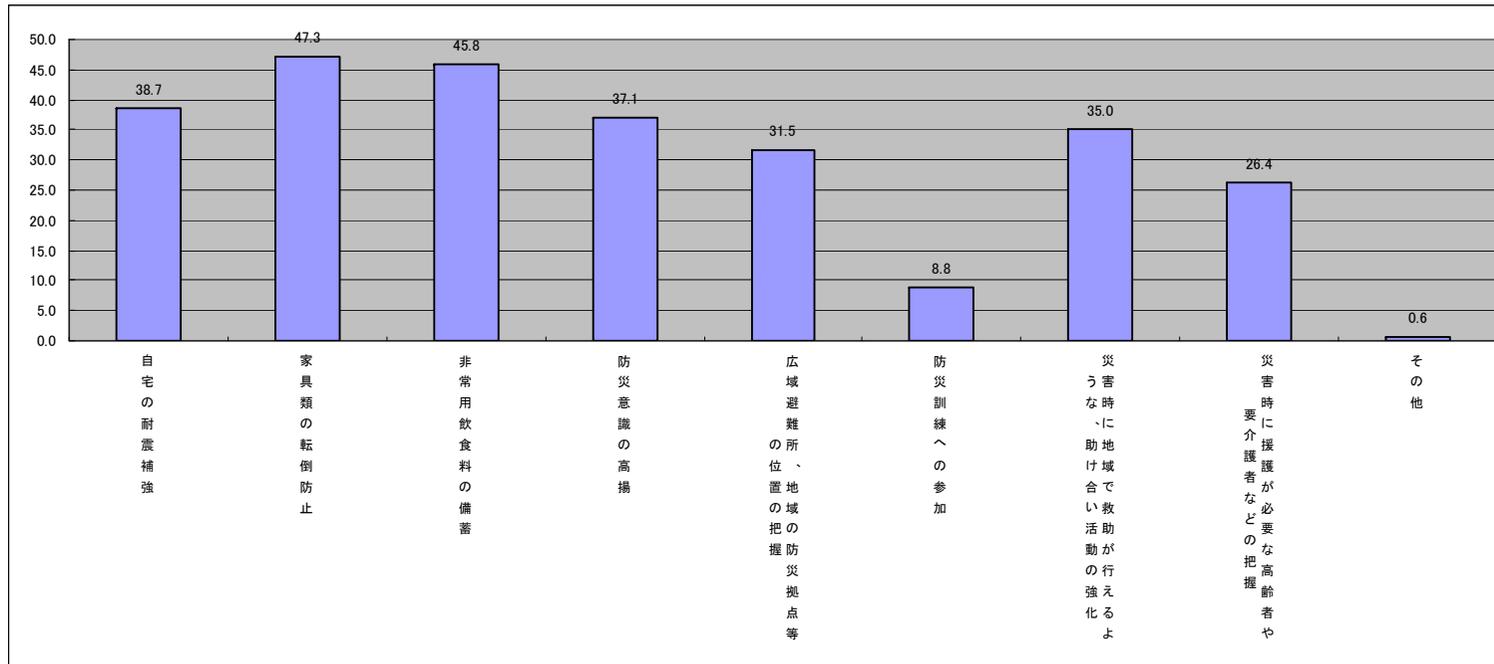
[Q20] 近畿圏では今後30年間で60～90%の確立で発生するといわれている東南海・南海地震をはじめ、さまざまな災害に襲われるおそれがあります。あなたが住んでいる地域の災害に対する行政の取り組みは十分だと思いますか。



[Q21] どのような点が不十分だと思いますか。(回答は3つまで)



[Q22] 災害対策を進めるために、今後、地域や家庭で力を入れて取り組むべき事柄は何だと思えますか。
 (回答は3つまで)



- 災害への行政の取り組みについて、不十分との回答が5割弱を占め、十分との回答を大きく上まわっている。
- 不十分な点については、「救急医療体制・救助体制」が最も多く、次いで「緊急時の情報伝達体制」「防災の教育・啓発活動」「避難場所への経路などの周知」「ハザードマップの整備」の順で多く、どちらかといえば、大規模災害が発生した直後の行動の混乱の回避や救急・救助の迅速化が望まれているものと考えられる。
- 今後、地域や家庭で取り組むべき災害対策については、各世帯単位で実施可能な取り組みが上位に挙げられている。